



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2002年12月
第11号

危機管理との出会い

危機管理システム研究学会常任理事

村上 處直（防災都市計画研究所）

私は1978年の宮城沖地震の直後からアメリカカリフォルニア州の地震対策の人達と交流が始まった。そして1979年から、私の都市安全管理システム（1965）を始めて電算機上で構築する作業がカリフォルニア州オークランド市でアメリカのグループと始める事になった。私は都市の地震対策を都市の安全管理問題として捉えていたので、いかに都市の危険要素を捉え管理するかが基本だと考えていた。地震問題を構造物の被害や人間の死傷問題の側面だけで捉えるのではなく、都市の経済活動や社会活動、文化活動などその地域のすべての活動を含めて地震との関わりを捉える必要があると考えていた。即ち都市社会に生活するすべての人が地震に関心を持つ必要を感じていた。オークランドのシステムが出来上がった1982年から、私はカリフォルニア州の地震対策のアドバイザーとなった。そしてロサンゼルス市長のトム・ブラッドレー氏に会い、その時トム・ブラッドレー市長からロサンゼルスでは、危機管理としての地震対策を始めますと言うお話を受けたのが危機管理という言葉と出会った初めてだった。彼は、都市社会を構成しているあらゆる企業関係者のトップを集め、危機管理の大切さを説きそれが地震対策だけの問題でなく、企業自体のすべての危機管理問題だと訴えた。そして役所の各部局にも、それぞれに危機管理としての地震対策計画の策定を命じた。そして1985年から地理情報システムを導入して、市役所の情報管理を始めた。ある組織にとっての危機管理とはその組織に関係するあらゆる情報管理が大切だからである。

1988年5月4日ロサンゼルスファースト・インターステート銀行で火災が発生した時、消火にてもどり放水を開始したのは2時間後で、消火できたのは火災覚知後3時間43分だったのに、銀行がディリングルームをバックアップセンターに移し世界中にサービスを開始したのは火災発生から30分で、その時ブラッドレー市長がテレビでロサンゼルス市の危機管理プログラムの成果だとコメントしていたのは印象的だった。

目	次
危機管理との出会い.....1	分科会報告.....4
第3回年次大会開催予告.....2	事務局からのお知らせ.....6

危機管理システム研究学会第3回年次大会開催予告

危機管理システム研究学会第3回年次大会は2003年5月21日(土)に千葉商科大学(大会実行委員長 太田三郎教授(当学会会員)千葉県市川市・JR総武線市川駅より徒歩15分・バス8分)において開催することに決定いたしました。

統一論題は「21世紀の危機管理 in 千葉商大」となります。大会のプログラム等については次回の会報12号(2003年3月発行予定)に掲載いたします。昨年に引き続き本年度もパネルディスカッションを予定しています。会員の皆様の、積極的な参加、熱心なる討議を心よりお待ちしております。皆様ご予定を調整されご出席をお願い致します。

分科会報告

【RMS(リスクマネジメントシステム)研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久(東京海上リスクコンサルティング)

<第16回研究会報告>

1. 開催日時、場所：2002年10月2日水曜日、18時30分～21時まで、於日新火災海上火災保険本店
2. 出席者(10名)：土屋、吉川、藪、池内、村上、小澤、長井、横井、指田、永倉(事務局)(順不同)

今回はリスクマネジメントパフォーマンス評価とリスクマネジメントシステムの有効性評価について読み進めました。パフォーマンスとシステムの有効性という概念はなかなか理解が難しく様々な意見がでました。緊急時対策のパフォーマンス評価は収拾直後という時期が大切である、その場合の評価は定性的でよい、対策に資金は不可欠でありそれを明確にするべきである、情報流通はリスクコミュニケーションにまとめるべき、評価につき是正改善の実施後とあるのは時系列としては原則5に入れた方がわかりやすい、などの意見が出されました。

次回は12月4日に日立製作所で行います。

オピニオン

飛入りにも拘らず議論への参加を自然な雰囲気の中で受入れて頂き、指田さん始めメンバーの方々に先ずは深謝申し上げます。久方振り様々な背景を持った方々の議論の輪に参加させて頂き刺激を受けましたが、最近柔軟性・適応性のレベルが下がった所為か、「規格」を論じるモードへの転換に時間が掛り、迷惑でなかったら良いかと心配しております。最後に、避難訓練で38階から非常階段を2階まで降りる(混雑しない状態で)平均所用時間は、約15分と報告・訂正させて頂きます。

会員 綾部 利夫(マーシュ・ジャパン 株式会社)

<第17回研究会報告>

1. 開催日時、場所：2002年12月4日水曜日18時00分から20時30分まで、於日立製作所本社会議室
2. 出席者(15名)：小澤、土屋、北沢、長井、松本、横井、山口、綾部、多田、村上、坂、竹中、五島、森、指田(順不同)

今回はPDCAサイクルのなかでいよいよ最後にあたる原則5の是正改善と原則6最高経営者のレビューを検討しました。是正改善については評価をうけてそのどこを改善するかについて実際の避難訓練の事例発表をもとに検討しました。実際の避難時間の測定や意味などについて、また避難訓練だからあらかじめ階段の扉を開けていた事例があるがそれでは訓練にならないという厳しい意見も出ました。最高責任者のレビューでは最高責任者の情報の開示によるコミットメントが重要ではないかという本質的な意義を問う意見が出ました。原則7はまだ未検討ですが、原則6までひととおりサイクルをまわす要素の検討が終了したので、今度の大会にむけてここまでの成果をまとめていきます。

次回は1月22日水曜日に新東京法律事務所で開催します。

【リスク事例サロン分科会】

主査：常任理事 島田 公一(あいおい損害保険(株))

<第3回 開催報告>

危機管理・リスクマネジメントに関する会員間の情報交流の場として、今年度より発足いたしました第4分科会「リスク事例サロン分科会」(第3回)が開催されました。本分科会は、開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。第3回分科会は前回に引き続き多数の方に参加いただき、活発に意見が交わされました。

1. 開催日時・場所：2002年11月13日(水)午後6:30~8:30、於 東洋経済新報社9階会議室
2. 参加者(26名)：浅尾、朝倉、荒木、石堂、北沢、小島(修)、小島(俊)、小島(直)、斎藤、島田、辻、田和、徳谷、長井、中嶋、中田、中村、能崎、野田、原、廣田、宮崎、森、藪、吉川(50音順)
3. テーマ：内部告発と企業の危機管理
雪印食品・日本ハム・東京電力等最近の事件に見る内部告発の例と内部告発制度化動向
4. 分科会の内容：テーマに関して報告者・島 吉裕氏(アベンティス ファーマ株式会社)から事実関係の報告・資料説明後、飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。主な発言は次の通りです。

<内部告発の法制化動向・制度化の目的>

- ・内部告発が最近の不祥事の発端となっている。会社内の声を受け取る仕組みが求められている。
- ・日本では労働基準法、原子炉等規制法にあるが包括的なものは無い。来年臨時国会頃の成立を目指して、公的機関+民間を対象とした内部告発保護のための法律が検討されている。
- ・内部告発制度は、企業がコンプライアンス違反で致命的なダメージを受けるのをできるだけ未然に防ごうという考えのもとにある方策である。
- ・内部告発制度は、外部告発を未然に防ぐという仕組みだが、それは社会のためには適切ではないのではないか。外部告発によって企業が健全になっていくほうがのぞましいのではない。
- ・内部告発は、不正を隠したりとり繕う仕組みではない。まずは内部告発によって自ら正しましょう、それでダメなら外部告発してくださいというものである。内部でまじめに取り組もうとする人を保護しその意見を適切に吸い上げて、自らの改善に活かして行こうと言うものである。

<内部告発制度がある会社の実態・制度化の留意点>

- ・当社では、5月以降10件程度通報がある。その通報が本当かどうかを確認するには限界がある。それが犯罪的なことならば、本格的に取り組めるが、そこまで行かないレベルだと捜査権があるわけではないので対応できない。
- ・告発情報の多くはセクハラや不倫情報である。
- ・告発とは少し違うが「マイナス情報の不報告は厳罰」という社内ルールを設けている。クレーム報告書を必ず2部書き一部はトップに直接行く。トップを含め毎朝会議がありそこで検討される。マイナス情報がいつもより少ないと何か問題があるのかというアラームにもなっている。
- ・コンプライアンス窓口には、例えば顧客からリポートを要求されているがどのように断ったらいいのかということも寄せられる。それらについても親切に答えることがほんとに重大なことを通知してもらえようになる。
- ・内部告発制度は企業のトップが率先して制度の目的を明確にすること、職場環境のオープン化、フィードバック(告発者へのものと社内全般へのものがある)が重要
- ・内部告発の受け口として、法務部やホットライン等の内部の部署、顧問弁護士などもあるが、告発する側してみれば内部の部署は独立性が担保出来ないと捉えるだろう。顧問弁護士についても独立性はある程度確保できるが完全ではないと見えるだろう。
- ・独立社外監査委員会のような仕組みが無い日本では、トップの不祥事を防ぐ仕組みとしては内部告発は機能を発揮しないのではないか。

第4回 リスク事例サロン分科会開催のご案内

危機管理・リスクマネジメントに関する会員間の情報交流の場として、今年度より発足いたしました第4分科会「リスク事例サロン分科会」を下記により開催いたします。本分科会は、開催の都度参加者を募り、飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。どなたでも参加いただけますので、お気軽にご参加ください。

1. 開催日時：2003年1月15日(水)午後6:30~8:30
2. 開催場所：東洋経済新報社9階会議室 <東京都中央区日本橋本石町1-2-1>
(地下鉄半蔵門線三越前徒歩1分、銀座線東西線日本橋徒歩3分、JR東京駅徒歩8分)
3. テーマ：後を絶たない企業不祥事と日本経団連「企業行動憲章」
- 日本信販・東京電力・三井物産・日本ハム等トップの辞任は相次ぐが -
4. 報告者：原 正輝 氏 (東洋経済新報社)
5. 分科会の持ち方：
 - ・テーマに関して報告者から事実関係の報告(30分以内)
 - ・参加者による自由発言・情報交流(約1時間30分：飲食しながら)
リスクマネジメントの視点からの感想、問題提起、関連するマスコミ・文献紹介など、どんな観点・視点からでもかまいません

6. 参加会費：3000円（軽食・飲物代として、当日徴収）

7. 参加申込み（先着順・定員25名・1月13日〆切）

電子メール（FAXでも可）により、下記事項を記入の上お申し込みください。

(1) 1月15日第4分科会参加希望 (2) 氏名 (3) 所属 (4) 連絡先電話 (5) 電子メールアドレス

[申込み先・問合せ先]：あいおい損害保険株式会社 商品開発部 島田 公一

電話：03-5789-7224 FAX：03-5789-6680 電子メール：ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

（当日の緊急連絡は携帯090-9145-4298へ）

8. その他

(1) 書記のお願い：参加者の中から1～2名書記をお願いしますので、よろしくご協力ください。

(2) 電子メールによる参加：当日参加できないかたでも、電子メールにより今回のテーマに関して情報提供や意見・感想を述べていただくことができます。上記[申込み先・問合せ先]に、氏名、所属、電話番号を記入の上、お寄せください。（1月13日まで）

毎回の分科会開催予定と参加申込方法：分科会開催日は、年間を通して原則奇数月の第2水曜日、午後6：30～8：30、同じ開催場所を予定しています。第5回は3月12日（水）となりますが、開催日の1ヶ月前にテーマ、報告者、申込要領等をホームページ・電子メールで詳細をご案内しますので、その時あらためてお申し込みください。

メールアドレス登録・変更通知のお願い

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

<事務局からのお知らせ>

1. 分科会連絡先

第1分科会（教育実践）：主査：後藤和廣、.03-3291-8921 / Fax.3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

第2分科会（RMS）：主査：指田朝久、.03-5288-6581(直) / Fax. 03-5288-6590
e-mail:TOMOHISA.SASHIDA@tokiomarine.co.jp

第3分科会（情報交流）：主査：鈴木敏正、.03-3288-4255 / Fax.3288-4691
e-mail:suzumasa@mvp.biglobe.ne.jp

第4分科会（第4分科会：リスク事例サロン分科会）
：主査：島田公一、.03-5789-7224 / Fax.03-5789-6680
e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

2. 新入会員紹介

氏名	所属機関・職名
浅利 眞	有限会社 クライシス インテリジェンス
宮川 和雄	大成建設 株式会社

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会 〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403
.045-453-0003 FAX. 045-442-0235
e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp
http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/

2002年12月22日発行 印刷 株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571